

PAT-NO: JP411066703A

DOCUMENT-IDENTIFIER: **JP 11066703 A**

TITLE: DISK DEVICE

PUBN-DATE: March 9, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TANAKA, TOSHIAKI
ARAKI, KAZUHIRO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TOSHIBA CORP	N/A
TOSHIBA AVE CORP	N/A

APPL-NO: JP09214566

APPL-DATE: August 8, 1997

INT-CL (IPC): G11B019/04, G11B017/04

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent fingers from being inserted into a disk tray and an optical disk from being scratched by making the disk tray into a close state while increasing a driving power step-by-step when the elapse of the prescribed time of a nonuse state and the open state of the disk tray are judged.

SOLUTION: When the time (to be measured by a timer 50a) when any kind of operations such as key operation and so forth is not performed becomes the power-off time of a power-off condition table 50c, a system CPU part 50 checks whether the disk tray is in the open state or in the close state to perform a

power-off when it is in the close state. When it is in the open state, the CPU performs the power-off after performing a tray closing processing. The CPU flickers a close guide display by driving a byzzer 73 from a time a little before performing a pulling processing with respect to the disk tray. The driving speed of the disk tray at the time of the pulling processing may be reduced by lowering the driving voltage of a driving circuit or by intermittently controlling the supplying of power to the driving circuit.

COPYRIGHT: (C)1999, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-66703

(43) 公開日 平成11年(1999)3月9日

(51) Int.Cl. 501
G 11 B 19/04 17/04 301

F I
G 11 B 19/04 17/04 501C 301S

審査請求 未請求 請求項の数12 OJ (全 12 頁)

(21) 出頭番号 特頭平9-21456

(22) 出願日 平成9年(1997)8月8日

(71)出願人 000003078
株式会社東芝
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(71)出願人 000221029
東芝エー・ブイ・イー株式会社
東京都港区新橋3丁目3番9号

(72)発明者 田中 俊朗
神奈川県川崎市幸区柳町70番地 株式会社
東芝柳町工場内

(72)発明者 荒木 和博
東京都港区新橋3丁目3番9号 東芝工
一・ブイ・イー株式会社内

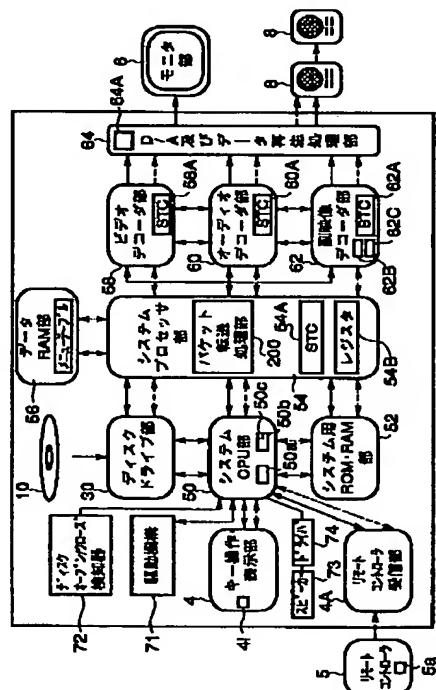
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦 (外6名)

(54) 【発明の名称】 ディスク装置

(57) 【要約】

【課題】 この発明は、ディスクトレイのクローズ時に、指の挟み込み等の事故を防止することができ、光ディスクに傷が付くなどの問題を回避することができる。

【解決手段】 この発明は、埃進入防止等のためディスクトレイを自動で閉じる場合の対策として、閉じる前に音、光等で知らせる、閉じる速さを、通常のクローズの速さより遅くする等の対策を行うようにしたものである。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段を有するディスク装置において、装置の不使用状態の所定時間の経過を判断する第1の判断手段と、

上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する第2の判断手段と、

上記第1の判断手段により装置の不使用状態の所定時間の経過が判断され、上記第2の判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段の駆動力を段階的に増加して駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段と、

を具備したことを特徴とするディスク装置。

【請求項2】 ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段を有するディスク装置において、装置の不使用状態の所定時間の経過を判断する第1の判断手段と、

上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する第2の判断手段と、

上記第1の判断手段により装置の不使用状態の所定時間の経過が判断され、上記第2の判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段を等価的に通常の駆動力より減じた駆動力にて駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段と、

を具備したことを特徴とするディスク装置。

【請求項3】 ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段を有するディスク装置において、装置の不使用状態の所定時間の経過を判断する第1の判断手段と、

上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する第2の判断手段と、

上記第1の判断手段により装置の不使用状態の所定時間の経過が判断され、上記第2の判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段の駆動力を段階的に増加して駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段と、

この処理手段により上記ディスクトレイの引き込み処理を行う際に、その引き込み処理を行う前に、引き込み処理の開始を案内する案内手段と、

を具備したことを特徴とするディスク装置。

【請求項4】 上記案内手段が、音声による案内である

2

ことを特徴とする請求項3に記載のディスク装置。

【請求項5】 上記案内手段が、表示による案内であることを特徴とする請求項3に記載のディスク装置。

【請求項6】 ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段を有するディスク装置において、装置の不使用状態の所定時間の経過を判断する第1の判断手段と、

上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する第2の判断手段と、

上記第1の判断手段により装置の不使用状態の所定時間の経過が判断され、上記第2の判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段を等価的に通常の駆動力より減じた駆動力にて駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段と、

この処理手段により上記ディスクトレイの引き込み処理を行う際に、その引き込み処理を行う前に、引き込み処理の開始を案内する案内手段と、

を具備したことを特徴とするディスク装置。

【請求項7】 ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段と、装置の不使用状態の所定時間の経過が判断された際に、装置の電源を遮断する遮断手段とを有するディスク装置において、

上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する判断手段と、

上記遮断手段により装置の電源が遮断される際に、かつ上記判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段の駆動力を段階的に増加して駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段と、

を具備したことを特徴とするディスク装置。

【請求項8】 ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段と、装置の不使用状態の所定時間の

経過が判断された際に、装置の電源を遮断する遮断手段とを有するディスク装置において、

上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する判断手段と、

上記遮断手段により装置の電源が遮断される際に、かつ上記判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段を等価的に通常の駆動力より減じた駆動力にて駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段と、

を具備したことを特徴とするディスク装置。

【請求項9】 ディスクが載置されるディスクトレイか

らディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段と、装置の不使用状態の所定時間の経過が判断された際に、装置の電源を遮断する遮断手段とを有するディスク装置において、

上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する判断手段と、

上記遮断手段により装置の電源が遮断される際に、かつ

上記判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段の駆動力を段階的に増加して駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段と、

この処理手段により上記ディスクトレイの引き込み処理を行う際に、その引き込み処理を行う前に、引き込み処理の開始を案内する案内手段と、

を具備したことを特徴とするディスク装置。

【請求項10】 上記案内手段が、音声による案内であることを特徴とする請求項8に記載のディスク装置。

【請求項11】 上記案内手段が、表示による案内であることを特徴とする請求項8に記載のディスク装置。

【請求項12】 ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段と、装置の不使用状態の所定時間の経過が判断された際に、装置の電源を遮断する遮断手段とを有するディスク装置において、

上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する判断手段と、

上記遮断手段により装置の電源が遮断される際に、かつ上記判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段を等価的に通常の駆動力より減じた駆動力にて駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段と、この処理手段により上記ディスクトレイの引き込み処理を行う際に、その引き込み処理を行う前に、引き込み処理の開始を案内する案内手段と、

を具備したことを特徴とするディスク装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、光ディスクを装置内に挿入したり、取出したりする際に用いるディスクトレイを有するディスク装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、CDやDVD等の光ディスクを扱う光ディスク装置では、光ディスクを装置内に挿入したり、取出したりする際に用いるディスクトレイを有している。このディスクトレイは、光ディスクをディスクトレイ上に載置したりディスクトレイ上から取出したりする際のオープン状態と、光ディスクを装置内に装填しているクローズ状態を有している。

【0003】一般に、上記のような光ディスク装置では、埃進入防止等のためディスクトレイを自動で閉じるオートトレイクローズ機能がある。上記オートトレイクローズは、ディスクトレイをオープン状態での放置で、光ディスク装置内に埃が入ることでの性能の低下（光学ヘッド内の対物レンズの光強度の低下）を防ぐために必要で、単体もしくはオートパワーオフ機能に連動して動作させるようになっている。

【0004】このオートパワーオフ機能とは、装置が停止後、ユーザーからの操作が一定時間行われない場合、当面の使用は無い物と判断して装置自らが電源を落とす事が出来る機能である。

【0005】このようなオートトレイクローズ機能は突然動作することになり、指の挟み込み等の事故（基本的には指を挟んでも怪我しないような設計となっている）の可能性や、光ディスクを丁度置こうとしたときに動作した場合、光ディスクに傷が付くなどの問題が発生しないとも限らない。

【0006】また、光ディスクを丁度置こうとしたときに、他の場所にあるリモートコントローラのクローズキーを誤って押してしまった場合、同様の問題が生じる。したがって、従来は、ディスクトレイのクローズ時に、指の挟み込み等の事故の可能性や、光ディスクに傷が付くなどの問題があった。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】この発明は、上記のような、ディスクトレイのクローズ時に、指の挟み込み等の事故の可能性や、光ディスクに傷が付くなどの問題を除去するもので、ディスクトレイのクローズ時に、指の挟み込み等の事故を防止することができ、光ディスクに傷が付くなどの問題を回避することができるディスク装置を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】この発明のディスク装置は、ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段を有するものにおいて、装置の不使用状態の所定時間の経過を判断する第1の判断手段、上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する第2の判断手段、および上記第1の判断手段により装置の不使用状態の所定時間の経過が判断され、上記第2の判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段の駆動力を段階的に増加して駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段から構成される。

【0009】この発明のディスク装置は、ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段を有する

ものにおいて、装置の不使用状態の所定時間の経過を判断する第1の判断手段、上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する第2の判断手段、および上記第1の判断手段により装置の不使用状態の所定時間の経過が判断され、上記第2の判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段を等価的に通常の駆動力より減じた駆動力にて駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段から構成される。

【0010】この発明のディスク装置は、ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段を有するものにおいて、装置の不使用状態の所定時間の経過を判断する第1の判断手段、上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する第2の判断手段、上記第1の判断手段により装置の不使用状態の所定時間の経過が判断され、上記第2の判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段の駆動力を段階的に増加して駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段、およびこの処理手段により上記ディスクトレイの引き込み処理を行う際に、その引き込み処理を行う前に、引き込み処理の開始を案内する案内手段から構成される。

【0011】この発明のディスク装置は、ディスクが載置されるディスクトレイからディスクが取出せるオープン状態と、ディスクが装置内に装填されるクローズ状態とに、上記ディスクトレイを駆動する駆動手段を有するものにおいて、装置の不使用状態の所定時間の経過を判断する第1の判断手段、上記ディスクトレイが、オープン状態かクローズ状態かを判断する第2の判断手段、上記第1の判断手段により装置の不使用状態の所定時間の経過が判断され、上記第2の判断手段により上記ディスクトレイのオープン状態が判断された際に、上記駆動手段を等価的に通常の駆動力より減じた駆動力にて駆動して上記ディスクトレイの引き込み処理を行ってクローズ状態にする処理手段、およびこの処理手段により上記ディスクトレイの引き込み処理を行う際に、その引き込み処理を行う前に、引き込み処理の開始を案内する案内手段から構成される。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して、この発明の一実施の形態に係る光ディスク装置を説明する。なお、重複説明を避けるために、複数の図面に渡り機能上共通する部分には共通の参照符号が用いられている。

【0013】図1は、この発明の一実施の形態に係る光ディスク再生装置の構成を示すブロック図である。この光ディスク装置は、視覚上のユーザーインターフェイスを構成する部分としてキー操作/表示部4、リモートコ

ントローラ5およびモニタ部6を備え、聴覚上のユーザーインターフェイスを構成する部分としてスピーカー部8（ここでは2チャネルステレオペアを例示）を備えている。

【0014】光ディスク装置はさらに、リモートコントローラ5からのユーザー操作情報を受信してシステムCPU部50に通知するリモートコントローラ受信部4A、光ディスク（DVD等）を回転駆動するディスクドライブ部30、システムCPU部50、システムROM/RAM部52、システムプロセッサ部54、データRAM部56、ビデオデコーダ部58、オーディオデコーダ部60、副映像デコーダ部62、D/Aおよびデータ再生部64、上記ディスクトレイ4iを駆動する駆動機構71、ディスクオープン/クローズ検知器72、および引き込み処理の開始を音にて案内するブザー73を駆動するドライバ74を備えている。

【0015】システムプロセッサ部54は、システムタイムクロック（STC）54Aおよびレジスタ54Bを含んでいる。同様に、ビデオデコーダ部58、オーディオデコーダ部60および副映像デコーダ部62は、システムタイムクロック（STC）58A、60Aおよび62Aを含んでいる。システムプロセッサ部54はさらに、光ディスク10から再生されたデータに含まれる種々なパケットの種別を判断して、そのパケット内のデータを対応する各デコーダ（58～62）へ転送するパケット転送処理部200を有している。

【0016】副映像デコーダ部62にはさらに、システムプロセッサ部54から供給される副映像データをデコードするデコーダ62B、およびこのデコーダ62Bによるデコード後の副映像データに対してハイライト処理を行うハイライト処理部62Cが設けられている。

【0017】デコーダ62Bは、所定の規則にしたがってランレンジス圧縮された2ビット単位の画素データ（副映像データ）を、強調画素、パターン画素、背景画素等に応じて伸長するものである。

【0018】ハイライト処理部62Cは、システムCPU部50から供給されるハイライト情報（たとえばメニュー選択選択項目）が表示される矩形領域を示すX・Y座標値、色コード、およびハイライト色/コントラスト値に応じて、ハイライト処理を行うものである。このハイライト処理は、モニタ部6を用いた視覚上のユーザーインターフェイスにおいて、ユーザが表示された特定のアイテムを容易に認知できるようにする手段として、利用できる。

【0019】データRAM部56は、副映像メニュー、オーディオメニュー、アングルメニュー、チャプター（プログラム）メニューなどのスタートアドレスを格納するメニューテーブル56Aを含んでいる。これらのメニューの特定部分を強調するのに、上記ハイライト処理が利用される。

【0020】デコード後の副映像データの画素毎の色とコントラストがハイライト情報に応じて変更されると、この変更後の副映像データはD/Aおよび再生処理部64内の画像合成部64Aに供給される。この画像合成部64Aにおいてデコード後の主映像データ（ビデオデータ）とハイライト処理後の副映像データ（字幕、メニューなど）が合成され、その合成画像がモニタ部6で表示されるようになる。

【0021】ディスクオープナー/クローズ検知器72は、上記ディスクトレイ4iがオープン状態かクローズ状態かを、たとえばマイクロスイッチ等で検知するものである。

【0022】また、システムCPU部50には、時間監視用のタイマー50a、内部メモリ50bにパワーオフ条件テーブル50cが設けられている。パワーオフ条件テーブル50cには、パワーオフ時間（上記ディスクトレイ4iがオープン時のオートクローズ時間）が設定されている。

【0023】上記パワーオフ条件テーブル50cの設定内容は、ユーザが任意に変更できるようになっている。ユーザが図1のキー操作/表示部4（またはリモートコントローラ5）を操作することによって、光ディスク10に記録されたデータの再生が開始される。

【0024】光ディスク10に記録されたデータは、マルチアングルブロック（インターリーブ記録される）を含む映像データ（MPEG圧縮データ）の他に、字幕表示などに利用される副映像データ（ランレングス圧縮されたビットマップデータ）、複数言語の音声データ（MPEGその他の方式による圧縮データ）および/または多チャンネルステレオオーディオデータ（量子化16～24ビット、サンプリング48～96kHzのリニアPCMデータ）を含む。これらの映像/音声データは、再生装置から出力されるまでにアナログのビデオ信号およびオーディオ信号に変換される。モニタ部6は、出力されたビデオ信号によって対応する映像を表示し、スピーカ部8は、出力されたオーディオ信号によって対応する音声を発生するようになっている。

【0025】なお、図1において各ブロック要素間の実線の矢印はデータバスを示し、破線の矢印は制御バスを示している。図1のディスクドライブ部30は、図2に示すように、モータ駆動回路11、スピンドルモータ12、光学ヘッド32（光ピックアップ）、フィードモータ33、フォーカス回路36、フィードモータ駆動回路37、トラッキング回路38、ヘッドアンプ40およびサーボ処理回路44を具備している。

【0026】光ディスク10は、モータ駆動回路11によって駆動されるスピンドルモータ12上に載置され、このスピンドルモータ12によって所定の線速度で回転される。光ディスク10の直下には、光ディスク10のデータ記録面にレーザビームを照射する光学ヘッド32

が配置される。この光学ヘッド32は、ガイド機構（図示せず）上に載置されている。

【0027】図1のシステムCPU部50から制御信号（アクセス信号）がサーボ処理回路44に供給されると、この制御信号に応答して、サーボ処理回路44からヘッド移動信号がフィードモータ駆動回路37に供給される。するとフィードモータ駆動回路37はヘッド移動信号に対応した駆動信号をフィードモータ33に供給する。フィードモータ33は、フィードモータ駆動回路37からの駆動信号にしたがって回動し、図示しないガイド機構に沿って、光学ヘッド32を光ディスク10の半径方向に移動させる。

【0028】光学ヘッド32は、光ディスク10に対向する対物レンズ34を備えている。光ディスク10から記録データを再生するときは、光学ヘッド32から光ディスク10のデータ記録面へ、対物レンズ34を介してレーザビームが照射される。その際、光ディスク10のデータ記録面（ビット）に対して光学ヘッド32のフォーカシングが自動的に行われるよう、対物レンズ34はフォーカス回路36からの駆動信号にしたがってその光軸（フォーカシング方向）に沿って微動する。この対物レンズ34はまた、トラッキング回路38から供給された駆動信号にしたがって光ディスク10の半径方向（トラッキング方向）に微動する。

【0029】このような対物レンズ34の微動（フォーカシング方向およびトラッキング方向）によって、光学ヘッド32からのレーザビームは、最小ビームスポットとなって光ディスク10のデータ記録面上のスパイラルトラック（ビット列）上に形成される。こうして、光ディスク10のデータ記録面上のトラックが光学ヘッド32からの光ビームスポットで自動的に（たとえば線速度一定で）追跡されるようになる。

【0030】フィードモータ33が駆動され、光ヘッド32が光ディスク10の半径方向に沿って移動され、光学ヘッド32によって光ディスク10のデータ記録層に形成された所定のセクタがアクセスされる。このアクセスの結果光ディスク10から読み出された再生データは、光学ヘッド32からヘッドアンプ40に供給され、このヘッドアンプ40で増幅され、ディスクドライブ部30から出力される。

【0031】出力された再生データは、システム用ROMおよびRAM部52に記録されたプログラムで制御されるシステムCPU部50の管理下で、システムプロセッサ部54によってデータRAM部56に格納される。この格納された再生データは、システムプロセッサ部54によって処理されてビデオデータ、オーディオデータおよび副映像データに分類され、ビデオデータ、オーディオデータおよび副映像データは、夫々ビデオデコーダ部58、オーディオデコーダ部60および副映像デコーダ部62に出力されてデコードされる。

【0032】デコードされたビデオデータ、オーディオデータおよび副映像データは、D/Aおよび再生処理回路64でアナログのビデオ信号およびアナログのオーディオ信号に変換される。同時に、ビデオ信号および副映像信号はミキシング処理されてモニタ6に供給され、またオーディオ信号はスピーカ部8に供給される。その結果、ビデオ信号および副映像信号に対応する映像がモニタ部6に表示されるとともに、オーディオ信号に対応する音声がスピーカ部8から再生される。

【0033】図1に示す装置の光ディスク再生動作を簡単にまとめると、以下のようになる。まず、キー操作/表示部4から再生指示が入力されると、システムCPU部50は、光ディスクドライブ部30に対して目的のアドレスとリード命令を送る。

【0034】光ディスクドライブ部30は、送られてきたリード命令にしたがって光ディスク10を回転駆動し、光ディスク10の目的アドレスより記録データを読み込んで、システムプロセッサ部50に送る。

【0035】システムプロセッサ部50は、送られてきたデータをデータRAM部56に一旦格納する。そして、格納したデータに付加されているヘッダ情報を基にデータの種別（ビデオ、オーディオ、副映像）を判断し、判断した種類に応じて、ビデオデコーダ部58、オーディオデコーダ部60および副映像デコーダ部62へ、対応データをそれぞれ転送する。

【0036】各デコーダ部58、60および62は、それぞれのデータフォーマットにしたがって、転送されてきたデータをデコードし、デコード結果の信号をD/Aおよびデータ再生処理部64へ送る。このD/Aおよびデータ再生処理部64から、モニタ部6へ適宜副映像情報（字幕など）がスーパーインポーズされた再生ビデオ信号が送られ、2CH（ないし8CH）のステレオスピーカ部8へ再生ビデオ信号に同期した音声信号（適宜効果音、環境音などを含む）が送られる。

【0037】なお、ビデオデコーダ部58でデコードされたビデオ信号は、さらにパンスキャン信号変換回路（図示せず）およびレターボックス信号変換回路（図示せず）に送られる。これら2種類の信号変換回路から出力される変換後のビデオ信号およびビデオデコーダ部58から直接出力された状態のダイレクト信号のうち、いずれかのビデオ信号がビデオ信号選択回路（図示せず）により選択されて、D/Aおよびデータ再生処理部64に転送される。

【0038】以上のようなパンスキャン信号変換回路、レターボックス信号変換回路およびビデオ信号選択回路は、図1のビデオデコーダ部58の内部に設けられている。

【0039】図1の再生装置で再生される光ディスク10には、種々の構造が考えられる。たとえば図3に示すような貼合せ構造を持つ高記録密度大容量の読み出し専

用ディスクを、図1の再生装置で使用することができる。

【0040】図3に示されるように光ディスク10は、一对の複合ディスク層（単層または2層）18とこの複合ディスク層18間に介挿された極薄（たとえば40μm厚の紫外線硬化性樹脂）の接着層20とから構成されている。各複合ディスク層18は、透明基板（たとえば0.6mm厚のポリカーボネート）14および記録層、すなわち光反射層16（アルミニウム、アルミニウム合金、あるいは金などを蒸着またはスパッタリングして形成したもの）から構成されている。これら一对のディスク層18は、光反射層16が接着層20の面上に接触するようにして貼り合わされ、1.2mm厚の高記録密度光ディスクとなる。

【0041】光ディスク10には中心孔22が設けられており、ディスク両面の中心孔22の周囲には、この光ディスク10をその回転時に押さえるためのクランピング領域24が設けられている。中心孔22には、光ディスク装置にディスク10が装填された際に図2に示されたスピンドルモータ12のスピンドルが挿入される。そして、ディスクが回転される間、光ディスク10は、そのクランピング領域24で図示しないディスククランパーによりクランプされる。

【0042】光ディスク10は、その両面のクランピング領域24の周囲に、ビデオデータ、オーディオデータその他の情報を記録することができる情報領域25を有している。

【0043】情報領域25のうち、その外周領域にはリードアウト領域26が設けられ、またクランピング領域24に接するその内周領域にはリードイン領域27が設けられている。そして、リードアウト領域26とリードイン領域27との間がデータ記録領域28として定められている。

【0044】情報領域25の記録層（光反射層）16には、データ記録領域としての記録トラックがたとえばスパイラル状に連続して形成されている。その連続トラックは複数の物理セクタに分割され、これらのセクタには連続番号が付されている。このセクタを記録単位として、光ディスク10に種々なデータが記録される。

【0045】情報記録領域25のデータ記録領域28は、実際のデータ記録領域であって、再生情報として、ビデオデータ（主映像データ）、副映像データおよびオーディオデータが、同様なビット列（光学的な状態変化をもたらす物理的形状）として記録されている。

【0046】読み出し専用の光ディスク10では、透明基板14にビット列が予めスタンパーで形成され、このビット列が形成された透明基板14の面に反射層が蒸着またはスパッタリングにより形成され、その反射層が記録層16として使用されることとなる。

【0047】なお、読み出し専用の光ディスク（DVD

11

-ROM) 10では、通常、記録トラックとしてのグループは特に設けられず、透明基板14の面に形成されたビット列がトラックとして機能するようになっている。(ただし記録・再生あるいは読み書きが可能なDVD-RAMでは、上記グループが設けられる。)

図1に示す光ディスク再生装置(DVDプレーヤ)において、ユーザー(視聴者)が装置本体のフロントパネルに設けられたキー操作/表示部4、あるいはリモートコントローラ5(本体内のリモートコントローラ受信部4Aと赤外線光通信により接続される遠隔操作装置)を操作することによって、光ディスク10から記録データ、すなわち、主映像データ、副映像データおよび音声データが再生される。再生された記録データは、装置内でオーディオ(音声)信号およびビデオ信号に変換され、装置外のモニタ部6およびスピーカ部8に送られてビデオ映像および音声として再現される。

【0048】リモートコントローラ5には、ディスクトレイ4iがクローズ状態の際に、オープン状態への引き出し処理(トレイオープン処理)を指示し、ディスクトレイ4iがオープン状態の際に、クローズ状態への引き込み処理(トレイクローズ処理)を指示するオープン/クローズキー5aが設けられている。

【0049】キー操作/表示部4が設けられた再生装置のフロントパネルには、たとえば図4に示すように、電源(パワー)キー4a、再生(ブレイ)キー4c、一時停止(ポーズ)キー4d、停止(ストップ)キー4e、チャプター/プログラムのスキップキー4f、光ディスク10の取込/取外を指示するオープン/クローズキー4g、表示窓4h、光ディスク10の挿入/取出口(ディスクトレイ)4i、クローズ案内表示器(LED)4j、スピーカー孔4k等が設けられている。

【0050】クローズ案内表示器4jは、クローズ時を点滅等で案内表示するものである。上記挿入/取出口4iには、図5に示すように、光ディスク10が載置されるディスクトレイ4iが設けられている。このディスクトレイ4iは、上記駆動機構71により移動されることにより、図4に示すクローズ状態と、図5に示すオープン状態となるようになっている。

【0051】上記駆動機構71は、図6に示すように、上記システムCPU部50から供給される制御信号に応じて制御される駆動回路81、この駆動回路81より正方向あるいは逆方向へ回転駆動されるモータ82、このモータ82により回転される回転ローラ83により構成されている。

【0052】これにより、モータ82が正方向に回転駆動され、回転ローラ83が正方向に回転されることにより、ディスクトレイ4iがクローズ状態からオープン状態への引き出し処理(トレイオープン処理)が行われる。

【0053】また、モータ82が逆方向に回転駆動さ

12

れ、回転ローラ83が逆方向に回転されることにより、ディスクトレイ4iがオープン状態からクローズ状態への引き込み処理(トレイクローズ処理)が行われる。

【0054】上記トレイクローズ処理が行われる際の、定常スピードは、70~140mm/sec程度で、クローズ時間は1~2秒程度である。次に、上記のような構成において、図7に示すフローチャートを参照しつつ、パワーオフ処理について説明する。

10 【0055】すなわち、システムCPU部50は、キー操作等何の操作も行われない時間(タイマー50aにより計測)がパワーオフ条件テーブル50cのパワーオフ時間となった際(ST1)、ディスクトレイ4iがオープン状態かクローズ状態か否かをチェックする(ST2)。このチェックの結果、ディスクトレイ4iがクローズ状態の場合、システムCPU部50は、電源のパワーオフを行う(ST3)。

【0056】また、上記ステップ2のチェックの結果、ディスクトレイ4iがオープン状態の場合、システムCPU部50は、ディスクトレイ4iに対するトレイクローズ処理(ST4)を行った後、電源のパワーオフを行う(ST5)。

【0057】上記トレイクローズ処理を、図8に示すフローチャートを参照しつつ説明する。すなわち、システムCPU部50は、駆動機構71内の駆動回路81にトレイクローズ処理を示す制御信号を出力する(ST1)。これにより、駆動回路81は、モータ82を逆方向に回転駆動し回転ローラ83を回転することにより、ディスクトレイ4iに対する引き込み処理を行う(ST12)。

【0058】この引き込み処理を行う少し前(0.3秒以上前)より、システムCPU部50は、ブザー73を駆動し、引き込み処理の開始を音にて案内するとともに、クローズ案内表示器4jを点滅することによりクローズ時を案内表示する(ST13)。

【0059】音と表示の引き込み処理の案内は、引き込み処理を行う少し前に1回だけ行うものであっても、引き込み処理中も含め複数回行うものであっても、引き込み処理を行う少し前から引き込み処理が終わる少し前まで連続して案内を行うものであっても良い。

【0060】この例では、音と表示の引き込み処理を案内したが、いずれか一方だけであっても良い。また、上記例では、引き込み処理時のディスクトレイ4iに対する駆動回路による駆動力が一定の場合について説明したが、これに限らず、引き込み処理時のディスクトレイ4iに対する駆動回路の駆動電圧を下げる、ディスクトレイ4iの移動速度を遅くするようにしても良い。

【0061】この場合、図9に示すように、駆動回路81への電源供給をシリーズレギュレータ、あるいはチョッパーレギュレータなどの可変電圧供給回路84を介し

て行うようにして、引き込み処理時の駆動回路81への電源供給を通常電圧よりも低くすることによって実現できる。

【0062】この駆動回路81への電源供給を通常電圧よりも低くする方法としては、図10の(a)に示すようなディスクトレイ4iの引き込み処理に対して、図10の(b)に示すように、通常駆動電圧(普通にクローズする時に使用する電圧)と最低駆動電圧(ディスクトレイ4iをクローズするのに必要な最小電圧)との間の一定の駆動電圧としたり、図10の(c)、(d)に示すように、グランドレベルから徐々に増加させる駆動電圧であっても良い。図10の(c)、(d)の可変制御の場合は、一時的に、最低駆動電圧を下回っても良く、特に、暫時増加での制御であれば最低駆動電圧を超えた時点でゆっくり動き出すので効果的であり、経年変化等による最低駆動電圧の変化も問題とならない。図10の(c)の例では、積分回路を使用し、図10の(d)例では、RCのフィルタを使用する。

【0063】また、引き込み処理時の駆動回路81への電源供給を通常電圧よりも低い、最低駆動電圧一定であっても良い。また、他の例として、引き込み処理時のディスクトレイ4iに対する駆動回路への駆動電圧の間欠供給により、ディスクトレイ4iの平均移動速度を遅くするようにしても良い。

【0064】この場合、図11に示すように、駆動回路81への電源供給をスイッチング回路85を介して間欠的に行うようにして、引き込み処理時の駆動回路81への電源供給を間欠的に行うことによって実現できる。

【0065】この駆動回路81への電源供給は、図12の(a)に示すようなディスクトレイ4iの引き込み処理期間に対して、図12の(b)～(d)に示す例1から例3のように、間欠的に供給されるようになっている。この場合、駆動信号のオン、オフの比で駆動速度が変化するようになっている。オン、オフのパルス幅が小さい方が、ディスクトレイ4iの慣性力等で平滑化されるので、スムーズに移動することができるが、ディスクトレイ4iが閉じる時間より十分小さければ(1/10程度以下)良い。

【0066】例1のように、一定のパルスでも、例2のように、オンパルスが暫時広がるような可変パルス(オン比率が増加)であっても、例3のように、オフパルスが暫時狭くなるような可変パルス(オン比率が増加)であっても良い。

【0067】図12の(c)、(d)に示す例では、間欠駆動力が徐々に増加していく場合について説明したが、これに限らず間欠駆動力が徐々に減少していく場合であっても良い。この場合のパルス例を、図12の(e)、(f)に示す。

【0068】また、他の例として、引き込み処理時のディスクトレイ4iに対する駆動回路の間欠駆動により、

ディスクトレイ4iの平均移動速度を遅くするようにしても良い。

【0069】この場合、図13に示すように、駆動回路81へのシステムCPU部50からのトレイクローズ処理を示す制御信号の供給をスイッチング回路86を介して間欠的に行うようにして、引き込み処理時の駆動回路81の駆動を間欠的に行うことによって実現できる。

【0070】この駆動回路81への制御信号の供給は、図14の(a)に示すようなディスクトレイ4iの引き込み処理期間に対して、図14の(b)～(d)に示す例1から例3のように、間欠的に供給されるようになっている。この場合、制御信号のオン、オフの比で駆動速度が変化するようになっている。オン、オフのパルス幅が小さい方が、ディスクトレイ4iの慣性力等で平滑化されるので、スムーズに移動することができるが、ディスクトレイ4iが閉じる時間より十分小さければ(1/10程度以下)良い。

【0071】例1のように、一定のパルスでも、例2のように、オンパルスが暫時広がるような可変パルス(オン比率が増加)であっても、例3のように、オフパルスが暫時狭くなるような可変パルス(オン比率が増加)であっても良い。

【0072】図14の(c)、(d)に示す例では、間欠駆動力が徐々に増加していく場合について説明したが、これに限らず間欠駆動力が徐々に減少していく場合であっても良い。この場合のパルス例を、図14の(e)、(f)に示す。

【0073】また、上記例では、電源のパワーオフが行われる際に、ディスクトレイ4iに対するトレイクローズ処理を行った場合について説明したが、これに限らず、リモートコントローラ5のオープン/クローズキー5aの投入(指示)により、ディスクトレイ4iに対するトレイクローズ処理を行う場合も上記同様に実施できる。

【0074】上記したように、埃進入防止等のためディスクトレイを自動で閉じる場合の対策として、ディスクトレイを唐突に動作させずに動作前にユーザーに事前に知らせる、つまり閉じる前に音、光等で知らせるようにしたものである。

【0075】また、トレイクローズにかかる駆動力を間欠駆動などで減少することで、力が掛ることを防ぎ、スピードを遅くすること、つまり閉じる速さを、通常のクローズの速さより遅くする等の対策を行うようにしたことにより、ユーザーの認識を促す時間を長くするものである。

【0076】この場合、ユーザーがディスクの再生などの使用の目的でクローズするわけではないので、トレイクローズのスピードは極端に遅くても最終的にディスクトレイが閉じられればよい。

【0077】上記のことより駆動力はディスクトレイを

15

動かすのに必要な最小の力を若干越える力にすればよい。ディスクトレイの摩擦の変化などで前記最小の力は変化するので、動くスピードからフィードバックして駆動力を制御すればよい。

【0078】フィードバックを構成しなければ、駆動力は摩擦や駆動力の経年変化も考慮した上での最小駆動力を設定する方法もある。さらに駆動力を漸次増加するよう制御する方法もある。この場合のメリットは、駆動力が最小駆動力を越えた時点で勝手にクローズし始めることで、クローズの始めのスピードは遅い点である。クローズをユーザが認識すれば、その後のクローズのスピードは通常のクローズでも問題ないので、クローズ後半で駆動力が通常に近づいても問題ない。

【0079】これにより、ディスクトレイのクローズ時に、トレイクローズを中止させるか、ディスクを置く行為をやめることで、指の挟み込み等の事故を防止することができ、光ディスクに傷が付くなどの問題を回避することができる。

【0080】

【発明の効果】以上詳述したように、この発明によれば、ディスクトレイのクローズ時に、指の挟み込み等の事故を防止することができ、光ディスクに傷が付くなどの問題を回避することができるディスク装置を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施の形態を説明するための光ディスク再生装置の概略構成を示す図。

【図2】ディスクドライブ部の概略構成を示す図。

【図3】光ディスクの概略構成を示す図。

【図4】キー操作/表示部の概略構成を示す図。

【図5】ディスクトレイの構成を示す概略図。

【図6】駆動機構の概略構成を示す図。

【図7】パワーオフ処理を説明するためのフローチャート。

16

【図8】トレイクローズ処理を説明するためのフローチャート。

【図9】他の実施の形態における駆動機構の概略構成を示す図。

【図10】他の実施の形態における引き込み処理時の駆動回路への電源供給を説明するためのタイミングチャート例を示す図。

【図11】他の実施の形態における駆動機構の概略構成を示す図。

【図12】他の実施の形態における引き込み処理時の駆動回路への電源供給を説明するためのパルス例を示す図。

【図13】他の実施の形態における駆動機構の概略構成を示す図。

【図14】他の実施の形態における引き込み処理時の駆動回路への制御信号の供給を説明するためのパルス例を示す図。

【符号の説明】

4…キー操作/表示部

4i…ディスクトレイ

5…リモートコントローラ

10…光ディスク

50…システムCPU部

50a…時間監視用のタイマー

50b…内部メモリ

50c…パワーオフ条件テーブル

71…駆動機構

72…ディスクオープン/クローズ検知器

73…ブザー

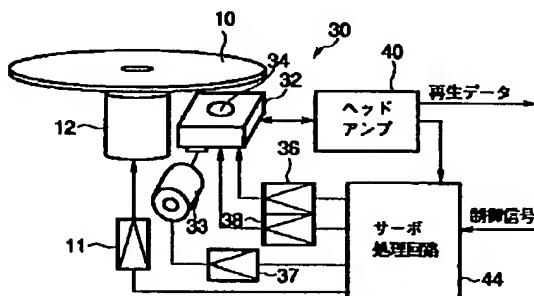
30 74…ドライバ

81…駆動回路

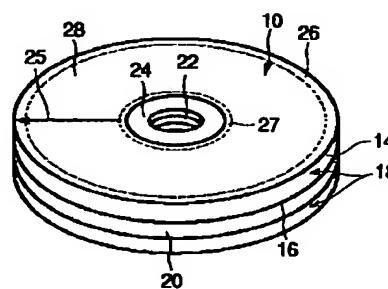
82…モータ

83…回転ローラ

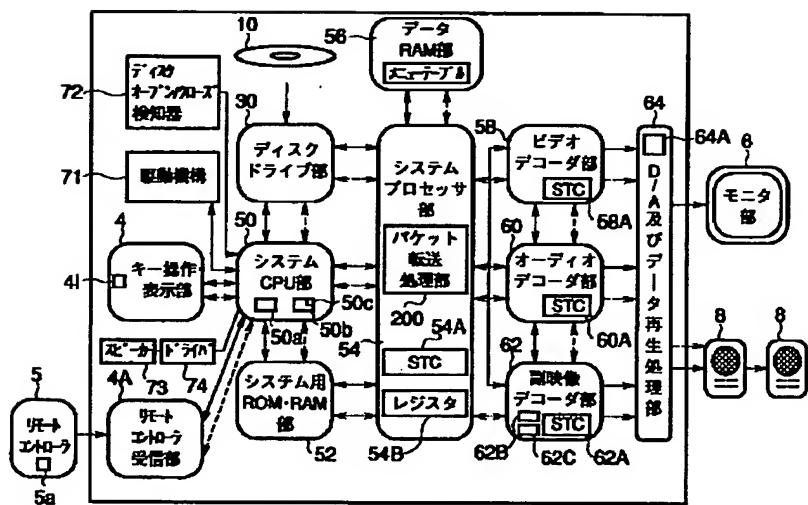
【図2】



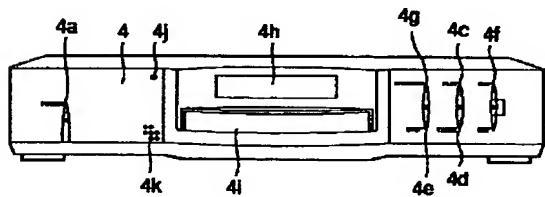
【図3】



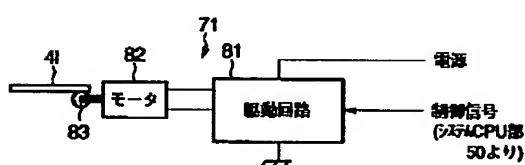
【 1】



【図4】

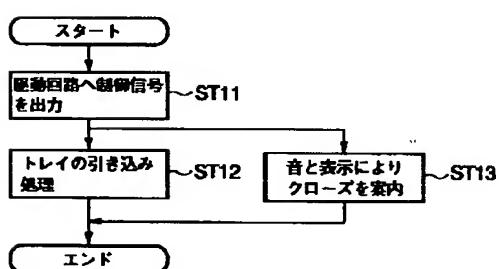


〔四六〕



(圖7)

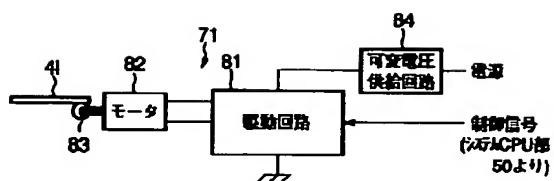
[図8]



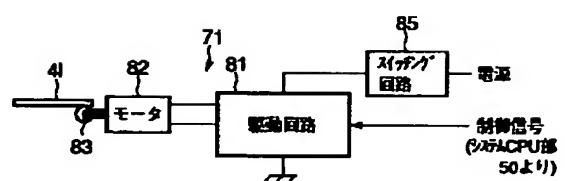
```

graph TD
    START([START]) --> ST1{ST1  
パワーオフ時間か?}
    ST1 -- NO --> ST2{ST2  
ハードディスク状態か?}
    ST1 -- YES --> ST4[ST4  
トレイクローズ処理]
    ST2 -- YES --> ST4
    ST2 -- NO --> ST3[ST3  
電源のパワーオフ]
    ST4 --> ST5[ST5  
電源のパワーオフ～ST5]
    ST5 --> ST3
    ST3 --> ST2
    ST3 --> END([END])
  
```

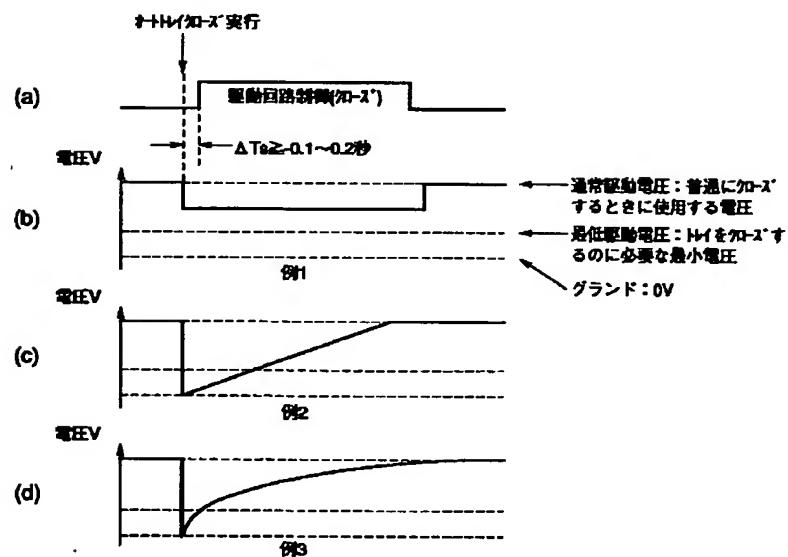
【図9】



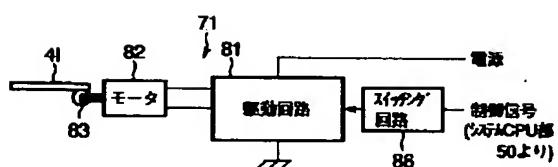
【図11】



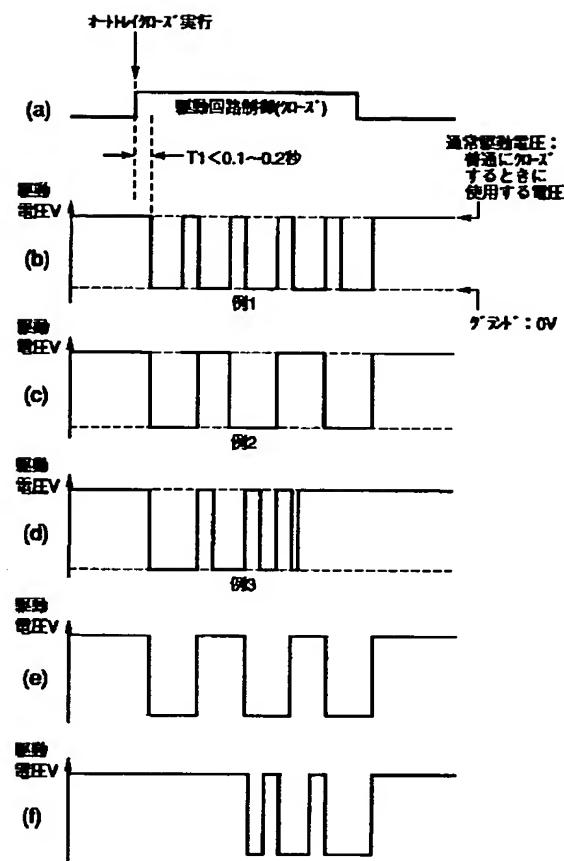
【図10】



【図13】



【図12】



【図14】

